

- (1) ねらい 若者や外国人労働者らが、魅力を感じ、将来住みたいと思える持続可能な市”FUTURE CITY”の実現に向けて、「〇〇市の今と今後の比較」や「必要な施設や設備」などの視点から、クラスの仲間からとったアンケート結果や表を提示しながら、理由を明確にして紹介することができる。
- (2) 評価規準 クラスの仲間からとったアンケート結果やグラフを提示しながら、若者や外国人労働者が魅力を感じ、将来住みたいと思える未来都市案を、理由を明確にしながらか紹介している。(思考・判断・表現)話すこと[発表]
- (3) 学習展開 (8/11)

過程	学習活動	教師の指導・援助(留意点)
導入	1 Greeting	<ul style="list-style-type: none"> ・「未来都市実現に向けて、どんな施設や技術が必要か」について紹介するため、単元末で使用できる言語材料使って Small Talk を行う。
	2 Small Talk 【Topic】 Which is better, driverless cars or normal cars? Why?	
展開	3 Today's Aim Let's make a presentation to be attractive to foreigners and young people.	<ul style="list-style-type: none"> 【ICT活用の工夫】 ・2年生全体でとった、現在の〇〇市に関するアンケート結果を電子黒板に表示する。
	4 Thinking Time (1) 各観点別グループで、プレゼンテーションの修正をする。 (2) 自分の考えをメタモジにマッピング等で簡単にメモする。	<ul style="list-style-type: none"> 【ICT活用の工夫】 ・授業者はモニタリング機能を使って、生徒の書き込み内容をリアルタイムで把握し、困り感を抱える生徒への支援を行う。
	5 Activity1 (1) メモを基に3～4人の小グループでプレゼンテーションを行う。 (2) 聞き手は評価の視点をもとに、評価や助言を行う。 【評価の視点】 自分が将来住みたいと思える内容か。 (3) 反応やアドバイスをもとに、別の小グループで伝え合う。	
	6 Sharing Time (1) 仲間のスピーチを聞き、内容面のよさを確認する。 (2) 共通の文法間違いを全体で確認する。 (3) なぜ〇〇市外に住みたいのか、永住したいのかについてのアンケート結果を提示し、より多くの若者が魅力を感じる内容にするための新たな評価の視点を確認する。 (4) 仲間の反応やアドバイス、全体交流での学びから、ペンの色を変え、マッピングの修正等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言、表現をメモしておく。 ・グループで作成したプレゼンテーション資料を示しながら活動できるように指導する。また、黒板(または電子黒板)に交流の視点を提示し、聞き手の反応や発表内容を深められるよう支援する。
終末	7 Activity2 (1) 別のグループに移動し、プレゼンテーションを行う。 (2) 聞き手は、評価の視点をもとに、評価や助言をする。	<ul style="list-style-type: none"> 【ICT活用の工夫】 ・Sharing Time では、アプリでアンケートを取り、住みたいと思えた発表をした生徒を意図的指名し、よかったポイントを全体で考える。
	8 Performance Time ・再度最初の小グループでプレゼンテーションを行い、お互いの高まりを実感する。 ・聞き手は最初の交流と比べて評価をする。 【本時の終末で到達させたい姿】 I think we have to make new transportation system. For example, we want our city to build a hyperloop station. There are two reasons. First, this is faster than a linear. We can enjoy sightseeing by the hyperloop. Second, we asked our classmates, "Is the transportation in our city useful for us?". According to the graphs, 95% of them answered, "Yes". And using it is the most useful way to work for young people. So, we think that we want our city to build a hyperloop station.	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で良かったポイントを明確にして共有する。また、評価の観点を再度位置付け、お互いに納得のできる説明にするため、新たな評価の視点を追加する。 ・注意する発音について、指導を行う。 ・生徒の発言をメモしておき、Activity1 と発言内容、表現の変化を確認する。 ・グループ活動に参加し、評価を行う。
	9 Good Job Time ・ALT が選んだ生徒によるプレゼンテーションの発表を聞き、どのような点がよかったかを交流する。	

【検証：期待される学習効果】

- ・アンケート結果を電子黒板に示し、可視化することで、情報を整理しながら考えなどを形成できるようにしている。
- ・モニタリング機能を活用することで、多様な生徒の実態に応じて、必要な支援をすることができる。
- ・リアルタイムでアンケートを取り、全体交流を行うことで、伝える内容を再構築することにつながる。